

(様式2)


2021年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【静岡県】

学校名【静岡県立静岡東高等学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	対象：第1学年 7クラス 290人 その他参加者：視覚特別支援学校の管理職1人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (学年行事 (学年集会)) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	本校の卒業生である東京2020パラリンピック5人制サッカー日本代表田中章仁選手を招き、チャレンジ精神やフェアプレー精神などのスポーツの価値を理解する。また、障がいのある方や海外の文化などの多様性に関する理解を深める契機とし、自らの進路選択やキャリア形成の一助とする。
5 取組内容	 <p>令和3年12月16日(木)、本校体育館において、東京2020パラリンピック5人制サッカー日本代表で、本校の32期生でもある田中章仁選手の講演会が開催された。対象は、本校1年生で、演題は「パラスポーツを通じて伝えたいこと～共生社会の実現に向けて～」であった。</p>



途中、ブラインドサッカー体験もあり、各クラスから選ばれた生徒たちが目隠しをして、仲間の声などを頼りにボールを運んだり、コーンに向かって蹴ったりする体験をした。生徒たちは思ったようにボールを扱えなかったり見失ったりしてしまい、コミュニケーションの大切さを体感していた。



「声にしてメッセージを伝える、それを受け止めて、またメッセージを返す」という田中さんの言葉は、パラスポーツに関しても、日常生活に関しても、信頼関係を築くための基盤となるものだと感じる。生徒たちは、苦勞を乗り越えて活躍される田中さんが、自分たちの先輩であることを誇りに感じているようであった。

6 主な成果

- パラスポーツの五人制サッカーについて理解を深めた。
- 視覚障害者の暮らしについて、現状を理解できた。
- 視覚障害者の方へのサポートの仕方について理解できた。
- 障害の有無に関わらず、コミュニケーションの大切さを知ることが出来た。
- 人生の苦難を乗り越え、日本代表選手として活躍している田中選手の活躍を見ることで、自身の将来を考えるきっかけを得て、さらに勇気を得られた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

当初、講演だけの予定であったが、五人制サッカーの体験をお願いした。すると、田中選手は、快く引き受けてくださり、各クラス5人ずつ計35人もの生徒の体験が実現できた。体験した生徒らは、聴覚だけを頼りにゲームを進めることの難しさだけでなく、互いに声を掛け合うことで、コミュニケーションの大事さを体感していた。また、それを見学している他の生徒たちも、「難しそうだ。」「声を掛け合うのは大事なのだな。」と話

	<p>しており、コミュニケーションの大切さを、体験者同様に感じていたようだった。五人制サッカーの体験は、こちらの当初の予想以上に、生徒たちの心を揺さぶったようである。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>本来ならば、全校生徒に聞かせたい素晴らしい講演だったが、学校の行事日程やコロナの「三密」対策の観点から 1 学年だけの実施になってしまった。とはいえ、パラスポーツの体験を組み込む場合、体育館半分ほどのスペースが必要になり、全学年（833 人）での体験実施は難しかったであろう。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>現時点では実施予定はないが、本校卒業生にオリンピック・パラリンピアンがいることは大きな財産である。毎年実施は難しいだろうが、数年に 1 度は、このような講演会が開けたら良いと思う。</p>